

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
A208	日本語応用Ⅱ	2年	講義	2	松田勇一
授業概要 1週間に2回の授業を行う。指定のテキストの重要部分を選んで学習する。まず、文章作成の基本事項を学び、後半は段階的に論述文作成を実践練習する。作成した文章を担当教員に提出し、教員はそれに対し添削・評価を行い、後日フィードバックする。					
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> 日本語でレポート、研究発表要旨、学術論文などを書く力がつく。(DP1「コミュニケーション力」) 学術的文章でよく使われる文型・表現や展開パターンを理解できる。(DP1「コミュニケーション力」) 最終的に、自身のテーマで2000字以上の小論文を書く能力が身につく。(DP2「情報力」) 					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	レポートに使われる文体	テキスト第Ⅰ部第1課をもとに、話し言葉、書き言葉の使い分けを復習する。			
2	自動詞や受身形を使った文	第Ⅰ部第2課をもとに、論文で使われる明快な文を書く方法を学習する。			
3	助詞「は」「が」の使い分け	第2課をもとに、間違えることが多い助詞の使い分けを例文利用で復習する。			
4	語や文の名詞化	第2課をもとに、語や文の名詞化を使って事柄を簡潔に述べる方法を学習する。			
5	首尾一貫した文	第2課をもとに、主部と述部の対応が取れた明快な文章を書く基本を確認する。			
6	句読点の使い方	第3課をもとに、句読点の使い方と原稿用紙の使い方を復習する。			
7	各種記号の使い方	第4課をもとに、括弧や特殊記号の使い方と原稿用紙への書き方を学習する。			
8	引用の仕方	第5課をもとに、関連資料や文献からの引用方法を学習する。			
9	段落構成方法	第Ⅱ部第1課をもとに、論理的な文章の基本である段落構成の基礎を学習する。			
10	実例を使った段落構成分析	第1課の本文「電子投票」を使い、段落構成方法を分析する。			
11	段落構成 課題作成	与えられた課題について実際に段落構成を考え明快な文章を作成し、提出する。			
12	中間試験	前半で学んだことを総復習し、文章作成の基礎知識を筆記試験で確認する。			
13	要約の方法	テキスト第6課をもとに、要約文の基本的な作成法を学習する。			
14	要約文 実践練習	第6課をもとに、要約文作成の実践練習を行う。			
15	要約文 課題作成	与えられた新聞や雑誌の比較的長い記事を簡潔に要約し、提出する。			
16	論説文の形式	第9課をもとに、実際の学術論文がどのような形式で書かれているか学習する。			
17	第Ⅱ部 第9課 本文前半読解	第9課のテキスト本文前半を段落ごとに口頭で要約しながら読解する。			

18	第Ⅱ部 第9課 本文後半読解	第9課のテキスト本文後半を段落ごとに口頭で要約しながら読解する。
19	論説文の構造分析	読み取った論説文で使われている表現を分析し、引用の仕方を確認する。
20	資料の利用法、資料の探し方	第10課をもとに、資料を使う意味と効果的な資料の探し方を学習する。
21	資料利用の留意点	資料を使って論文を作成する際に陥りやすい間違いを防ぐ方法を学習する。
22	資料利用の実例分析	テキスト第10課本文をもとに、実例を読みながら資料利用の表現を学習する。
23	資料利用 課題作成	インターネットを利用して得た資料を基に形式に従い文章を作成する練習をする。
24	レポート作成の心構え	第11課をもとに、実際にレポートを作成する手順を確認する。
25	レポート作成準備作業	第11課に掲載されているレポート実例を参考に、各自のテーマを決定する。
26	レポートの構成構築	各自のテーマごとにレポートの構成を考える。
27	資料収集	各自のテーマにふさわしい資料を収集し、吟味しながら構成を展開する。
28	レポート執筆	効果的に資料を挿入しながらレポートを執筆する。
29	レポート推敲作業	テキストの該当部分を確認しながら、レポートの形式を整える。
30	レポート修正と清書	形式が整ったら清書し、レポートを完成させる。

準備学修(授業外の自己学修)

時間内に書き終わらなかった課題を宿題とすることもあるので、その場合は図書館・メディアコーナーなどを利用して書き上げ、期限までに提出すること。

成績評価の方法・基準(%表記)

中間試験(30%)、期末試験(レポート形式)(40%)、課題提出(30%)などを総合評価する。中間試験は教室内で筆記試験を行うが、期末試験はレポート提出とする。

観点	S	A	B	C
論説文の形式を正確に理解し、自身でも再生産する。	ほとんど問題なくできる	十分にできる	ほぼ正確にできる	部分的に間違えることがある
自身の意見を論文の形で表明する。	正確に意見表明できる	おおむね意見表明が可能	不十分なところもあるがほぼ可能	多少わかりにくい部分がある

教科書

『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』、二通信子 佐藤不二子著、スリーエーネットワーク、2003年、1,512円
参考書等

教科書の内容に関連する新聞や雑誌の記事を読むこともあるが、その場合授業内でコピーを配布する。

履修上の注意・学修支援

1週間に2回の授業を行い、両方を受講して2単位取得となる。課題は必ず提出すること。全授業日数の2/3以上出席しないと期末試験の受験(レポート提出)資格を失う。